

学校法人城西大学 2023年度事業計画

1. 城西大学・城西短期大学
2. 城西国際大学
3. 財務、人事、情報基盤

1. 城西大学・城西短期大学

① 教育力

1 教育の質保証

- ・ 全学・各学部・各研究科間で整合性のある3ポリシーの制定
- ・ アセスメントポリシーに基づく学修成果の可視化
- ・ 教学マネジメント・教学IR・初年次教育体制の整備
- ・ 国家試験合格率の改善（薬剤師国試新卒合格率80%以上）

【2023年度の取組等】

○ 全学・各学部・各研究科間で整合性のある3ポリシーの導入

- ・ DPに定める資質・能力を保証する「出口の質保証」の充実に向けて取組強化（学修成果の可視化）及び成果報告会を実施
- ・ 教学IR体制の機能強化（各種学生アンケートの分析と私立大学等改革総合支援事業を含めた国の補助金獲得向上のための支援強化）
- ・ JUファクトブックの作成
- ・ 薬剤師国試合格率 目標 新卒合格率82.0%

2 教育改革（文理融合、リベラルアーツ教育含む）

- ・ 文系3学部の重複科目の一本化と科目数の削減
- ・ 学生目線に立った教育プログラムへの改善
- ・ Society5.0社会の実現にとって不可欠な、データサイエンスを加味した文理融合教育の確立
- ・ 全学部共通教育の整備

【2023年度の取組等】

○ カリキュラムの最適化のため、更なる授業科目数の削減（最大で2割削減）

- ・ 大人数、少人数授業への対応（履修者300名以上の履修制限と3名以下の授業閉講を制度化する）
 - ・ 教育効果が有効性と認められる講義のオンデマンド型への奨励
 - ・ 全学部共通教育（リベラルアーツ教育）の確立と全学共通教育機構の設置準備
 - ・ 全学で105分授業の導入
 - ・ 完全セメスター制の有効性を検証するとともに、クォータ制導入に向け準備を進める
- ##### ○ 2024年度基幹教員導入に向けて、導入方針を策定

① 教育力

3 時代に即した学部・大学院教育

- ・ 各学部・各研究科の3Pの整合性を高める
- ・ SDGsやSociety5.0の課題に挑む人財の輩出
- ・ 各分野の専門的知識を養成する教育強化、必要に応じ組織（大学院及び学部）の新設・改廃を実施

【2023年度の取組等】

- ・ 大学院社会科学研究科（仮称）設置準備
- ・ 文系3学部の再編と将来構想（経営学部にスポーツ系新学科構想）
- 理学部新学科（仮）数理データサイエンス学科設置準備委員会の設置及び薬学部薬学科の入学定員削減の具体案を作成
- 短期大学の今後のあり方について、学内組織の見直しを含め検討

※ ○は重点取組事項

4 学習環境の整備

- ・ 学ぶ意欲を高める授業運営、教材の創意工夫等を行い学習環境の改善
- ・ 教室・演習室、アクティブラーニングエリア等学習環境の整備
- ・ オンライン及びハイブリット授業環境整備
- ・ 学習活動のサポート体制整備

【2023年度の取組等】

- ・ 授業は、対面授業を基本とし、有効性が認められる授業はオンデマンドで実施
- ・ JOSAI HUB（23号館）Ⅱ期工事完成（アクティブラーニングエリア等の学習環境が整う）、キャンパスバリアフリー化の促進
- ・ Wi-Fi環境整備とPC必携化（PC購入補助金制度継続）
- 川角駅周辺整備計画の推進（南口改札及び大学へのアクセス環境を整備するとともに、安心・安全な通学環境を目指す）

② 学生支援力

5 修学支援の充実（障がい学生支援含む）

- ・ 奨学金制度・授業料減免制度の検証と改善
- ・ 教職員が連携した、学生相談体制及び学修指導体制の整備
- ・ 障がい学生に配慮した学習環境の整備

【2023年度の取組等】

- ・ オンデマンド型授業の実施、学修成果の可視化について検討
- 留学生授業料減免新制度への移行（出席及び成績状況を勘案し授業料減免を1割～3割の範囲で圧縮する）
- ・ 障がい学生の多様性に配慮した学習環境の整備状況の検証
- ・ 各種奨学金制度の検証を進める（スポーツ奨学生、特待生入試制度、学業成績優秀者奨学金、留学生授業料減免等）
- ・ 学生カルテ及び出席管理システムを利用した支援体制の見直し

6 正課外教育の推進

- ・ クラブ・サークル活動、ボランティア活動、地域貢献活動等へのサポート体制の充実
- ・ 正課外活動の安心・安全を確保するための法令順守（コンプライアンス）への取組強化
- ・ スポーツ振興センターの活動の活性化

【2023年度の取組等】

- ・ コロナ禍で失われたクラブ・サークル活動を活性化するためのサポート体制の充実を図る
- 強化スポーツクラブの運営状況及び助成金の管理について点検・評価を実施

② 学生支援力

7 休学・退学の防止

- ・ 入学前教育、新入生オリエンテーション、初年次教育等の充実
- ・ 休退学防止WGによる休退学の真因を把握・分析する体制整備
- ・ 休退学率：2%台を目指す

【2023年度の取組等】

- ・ 各学部と学生相談室との連携強化
- ・ 学生相談室に専従スタッフ配置を計画
- ・ 父母後援会主催の父母との懇談会を活用した保護者との連携強化

○ 休退学者WG活動の活性化

① 休退学防止FD・SD実施

② 退学率の高い留年生、特にゼミに所属していない留年生の把握と支援体制強化

③ 遅刻・欠席を繰り返す学生の把握

④ 学生カルテ（学生の細かな情報データベース）の有効活用

- ・ 23年度 退学率 目標：2.8%、休学率：1.5%

③ 就職・進学支援力

8 キャリア教育及び就職・進学支援の充実

- ・ キャリア教育ポリシーの策定
- ・ 社会の動向や学生ニーズを捉え、学生の希望・能力・個性に応じた就職・進学支援体制整備
- ・ 外国人留学生への就職支援
- ・ 学部就職率：100%を目指す

【2023年度の取組等】

- ・ キャリア教育ポリシーの策定
- ・ セメスター制導入に伴う就職行事の見直し
- ・ スポーツ振興センターと共同で体育会学生向けガイダンスの実施
- ・ 障がい学生の進学支援強化のために更なる情報の共有化を図る
- ・ 資格取得講座の充実
- ・ 留学生向けガイダンスの強化と就職活動の実態把握
- ・ LGBTQについて、理解を深めるために教職員研修の実施
- ・ 父母向けガイダンスの充実

○ 学部就職率 目標：文系96% 理学98% 薬学96%

④ ブランド力・学生募集力

9 大学広報の強化

- ・ 法人と一体化した城西ブランドの構築
- ・ 本学の強みを活かした魅力ある大学像の発信（地域と連携した教育活動、スポーツクラブの活躍等）
- ・ 6学部（短大含む）が1キャンパスに集約された強みを生かす広報活動の強化

【2023年度の取組等】

- 本学の強み（特色ある教育制度・最新施設・地域との連携等）を生かした広報戦略の策定
 - ・ 数理・データサイエンスセンターで行っている文理融合教育を本学の強みとして社会へ発信する取組強化（ニュースレター等の発行）
 - ・ 大学広報誌の両大学連携
 - ・ 世界大学ランキング日本版のランクアップ

※ ○は重点取組事項

10 学生募集力の向上

- ・ 高校等での知的能力の評価だけでなく、能力・意欲・適性等（留学生にとっては日本語力含む）を多面的・総合的に評価する入学者選抜方法の構築と実施
- ・ Web募集・出願の強化を図る
- ・ 定員確保に努めるとともに、入学定員に対する入学者比率を各学部の入学定員毎1.05倍～1.15倍以内を目指す

【2023年度の取組等】

- 高大連携事業を強化し、募集力向上に繋げる、特に高校での探求型学習への本学教員による授業サポートを実施
 - ・ 学生募集活動において学部間(特に文系3学部)の連携強化を図る
 - ・ 女子学生獲得のためのアクセス環境・キャンパス環境の整備
 - ・ JIUとの合同入試に向け課題の洗い出し
 - ・ 学部学生数目標7,140(充足率1.00) 大学院学生数目標181(充足率0.72)

⑤ 国際力

11 国際交流

- ・ 海外の大学・研究機関との連携・協力体制の推進
- ・ 各学部と連携した国際交流支援体制の構築
- ・ 学生と協同したキャンパス内の国際交流の推進
- ・ 国際部構想の実現(入学から卒業までのサポート体制の一本化)

【2023年度の取組等】

- ・ 本学の国際教育戦略の再構築（攻める地域、学内組織等）
- ・ 海外の大学・研究機関との連携・協力体制強化
- ・ 留学生授業料減免制度の見直し
- 国際部設置に向け学内組織の再編（国際教育センター、別科、語学教育センターとの連携・協力体制推進）
- ・ 海外留学の本格的再開と留学促進のための支援体制充実
- ・ 留学生受け入れ拡大に向けた全学的計画策定
- ・ 卒業生向け留学プログラムの広報強化と利用者の拡大を目指し同窓会との連携強化（渡航費補助制度の充実含む）

12 留学生受入れと留学促進

- ・ 留学生の日本語教育プログラムの充実
- ・ 留学希望者への語学教育プログラムの充実（特に英語・中国語）
- ・ 在学生に対する留学生比率10%を目指す
- ・ 海外協定校への交換留学及び短期海外研修プログラムの多様化と希望者増を目指す（長期留学 20名、短期留学200名目指す）

【2023年度の取組等】

- ・ 本格的な外国人留学生受入及び海外留学再開
- ・ 日本人学生の語学力向上のためのプログラム整備
- 留学生比率目標(大学3%)(大学院40%) 合計3.5%
- ・ 海外留学目標（長期 10名 短期 100名）

⑥ 研究力

13 研究成果創出・発信と外部資金獲得の向上

- ・ 各分野をリードする研究成果及び地域課題を解決する研究成果の創出と、研究成果の国内外への発信強化
- ・ 外部研究資金の募集情報の提供・申請サポート等応募者への支援体制整備
- ・ 共同研究、受託研究獲得総数増
- ・ 科研費補助金等の申請を奨励し、採択率30%以上を目指す

【2023年度の取組等】

- ・ 広報課と連携し、研究成果のメディアへの発信強化
 - ・ 外部資金獲得に向け両大学が連携した支援体制の構築
 - ・ 海外の研究機関への教員派遣開始
 - ・ 企業等との共同研究促進に向けた仕組みづくりと支援体制強化
- 科研費申請数目標75件 採択数目標23件（30%）

14 研究費の管理運営体制整備

- ・ 全学的な研究支援専門部署の設置
- ・ 公的研究費の管理運営体制及び指針・規程の見直し・整備
- ・ 間接経費の執行に関する指針の見直し

【2023年度の取組等】

- ・ 公的研究費の管理・監査のガイドラインに沿って体制整備を図り、関係指針、規程の点検・見直しを行う
- 公的研究費に関する関係指針・規程について、両大学の整合性を高める
- ・ 間接経費の執行に関して検証を行う
 - ・ 公的研究費の管理運営に関するFD研修会の実施

⑦ 地域連携・社会貢献力

15 地域人材育成と教育研究成果の地域への還元

- ・ 地域課題の解決及び地域が必要とする人材の育成
- ・ 地域との連携・社会貢献活動の拠点となる部署の設置
- ・ 教育研究成果の社会への還元（シンポジウム、生涯学習講座、市民講座、展覧会等の開催）

【2023年度の取組等】

- ・ 本学の教育資源を活かした多面的な活動を本格的に再開
- ・ 地域に特化したインターンシッププログラムの開発
- ・ 地域課題解決のための地域人材育成プログラムの開発
- 地域連携センターと広報課が連携し、本学の教育研究成果を地域へ発信（学生による地域連携活動発表会の開催、地域と大学の取り組みについて紀要発行）

16 産学官ネットワークの推進

- ・ 地域社会の課題解決や産業イノベーションにつながる産学官連携事業の推進
- ・ 地域と連携した研究活動の実施
- ・ 大学連携プログラム（TJUP）を活用した、教育・研究活動の推進

【2023年度の取組等】

- ・ 産学官連携のためのニーズ+シーズマップ作成準備
- 学部横断型産学連携教育プログラムの策定並びに地域への展開

⑧ ネットワークカ

17 情報システムの整備

- ・ ICT教育、オンライン授業の環境の整備
- ・ 大学情報の調査分析のためIR室設置・DXによる教育活動支援

【2023年度の取組等】

- ・ 教育研究システムの更新、時代に沿った教育環境の整備
- オンライン授業と対面授業の長所を融合させた演習室の整備と個人PC（BYOD）を活用できる環境整備を進める
- ・ DXによる教育活動支援について、他大学の実情調査
- ・ PC必携化に伴うパソコン購入補助制度（5万円/人）継続
- ・ 教学事務システム更新に向けた準備を進める

18 情報セキュリティ

- ・ 情報セキュリティ体制の確立
- ・ 情報セキュリティの周知徹底

【2023年度の取組等】

- 情報セキュリティに関する各種研修会の開催
- ・ 学生・教職員へのウイルス対策ソフト提供
- ・ Box(オンラインストレージ)の導入

⑧ ネットワーク力

19 図書館システムの統合

- ・ 新しい図書館の在り方を実現
- ・ 図書館と情報センター（情報推進課）連携強化
- ・ 図書館システム及び運用方法をJIUと統合し合理化を図る

【2023年度の取組等】

○ 図書館システム統合プロジェクトの活動継続

- ① 学生及び本学教職員の個人情報保護の観点から、情報管理が適切に行われる仕組みの構築
 - ② 電子ジャーナル・データベースの法人契約の可能性（現状、大学単位の契約）
 - ③ 図書の共同購入（図書利用者の利便性を確保した上での合理化を図る）
- ・ 他大学の図書館システムの調査・研究
 - ・ 図書館システム統合のメリット・デメリットの洗い出し

20 同窓会・父母後援会との連携

- ・ 大学情報の発信のために卒業生とのネットワークの整備
- ・ ホームカミングデーをはじめとする各種の交流会・懇談会の実施
- ・ 卒業生所在情報補足率80%以上を目指す
- ・ 同窓会、父母後援会による、海外留学制度への支援制度、学費補助制度、クラブ・サークルへの助成制度の継続

【2023年度の取組等】

- 大学情報の発信と卒業生とのネットワーク強化を目指し、同窓会との共同によるホームカミングデー開催（11月3日(祝)開催予定）
- ・ 父母後援会地区懇談会を利用した同窓会各県支部との交流の促進
- ・ 卒業生所在情報把握率 目標：80%

⑨ 組織力・運営力

21 ガバナンス体制の確立とコンプライアンス徹底

- ・ 組織・業務の透明性を高めるための体制整備
- ・ 構成員へ大学の方針を浸透させる取組強化
- ・ 大学の社会的責任を果たすため、本学の構成員一人ひとりがリスクマネージャーとしての自覚を持ち、様々なリスクに対応できる実践的リスクマネジメント体制を確立

【2023年度の取組等】

- ・ 本学が定めた私立大学ガバナンス・コードの検証と改善
- 大学が取り組む教育・研究・社会貢献活動が、ステークホルダーに理解・浸透されているか検証を行う
- 実践的なリスクマネジメント体制の確立

22 現場力向上

- ・ 事務局全部署に業務マニュアルを備え付ける
- ・ 各部署間の業務連携体制の強化（業務が繁忙な部署をサポートする体制の制度化）
- ・ 教職員の勤務評価制度の制定

【2023年度の取組等】

- 職員勤務評価の改善と実施（業務改善等に積極的な職員のモチベーションを高めるための評価方法への移行）
- ・ 教員勤務評価制度の制定に向けた問題点の洗い出しと学部執行部との意見交換の実施
- ・ 事務局の効率化を目指し教学組織の統合を進める
- ・ ペーパーレス化の推進（前年度から10%以上の削減を目指す）
- ・ ゼネラリスト育成のためのジョブローテーション制度導入促進
- ・ 職員の勤務時間変更と完全週休二日制への移行

⑨ 組織力・運営力

23 自己点検・評価

- ・ 教育研究活動の活性化と質的保証のための自己点検・評価に関する体制・機能の強化
- ・ 自己点検・評価結果を大学運営の改善に反映
- ・ 第2期認証評価指摘事項への適切な対応
- ・ 第3期認証評価受審

【2023年度の取組等】

- ・ 3月末に大学基準協会へ提出した報告書の点検及び受審準備
- 第3期認証評価受審
- ・ 自己点検・評価を外部委員会に諮り、その結果を改善・向上に繋げる取組みの継続

2. 城西國際大學

①「教育力」の強化

1 教育の質的保証の徹底

- ・ 整合性のある3ポリシーの制定
- ・ 教学マネジメント体制、教学IR体制の確立
- ・ アセスメントポリシーに基づく学修成果の可視化

【2023年度の取組等】

- ・ アドミッション・ポリシーの点検・見直し（「教学マネジメント指針（追補）」の公表に伴う改正措置）
- 教学IR体制の機能強化（学生に関わる基本データの100%集約・分析・提供、教職員への利用推進）
- ・ 学修成果の可視化（授業評価アンケートや教学データ集計、学生調査などの集約・分析・提供による）
- ・ 大学院教育の重要性の啓発（教員任用基準の設定と博士学位取得の推進を含む）

2 基盤教育の充実を核とする教育改革の展開

- ・ 論理的思考・表現力と主体的な学びの姿勢の付与
- ・ 文化、社会、自然等に対する知識・理解、鳥瞰力、コミュニケーション力、問題発見・解決能力の養成
- ・ 日本文化及び異文化を理解・尊重
- ・ 本学独自の基盤教育の構築

【2023年度の取組等】

- クォーター制・全学部共通基盤科目の点検・改善（リベラルアーツ教育の更なる充実、課題を用いたアクティブ・ラーニング科目の増設（目標値：全科目の10%）、医療系学部でのリベラルアーツ教育推進、サマーセッション・ウインターセッションの利用向上）
- ・ JIU/JU共通科目（リベラルアーツ、経営分野、薬学分野など）の検討（クォーター科目化を含む）及び合同オンライン教育の開始
- 初等中等教育改革に対応した高等教育実践・全学部共通基盤科目の教育技法の改善（知識付与から考え抜く学びへの転換）
- ・ リメディアル教育（大学教育を受ける前提となる基礎的な知識等を補う教育）の導入計画の企画と2024年度からの導入
- ・ 総合大学のメリット勉強会実施

①「教育力」の強化

3 時代に適合した質の高い学士課程教育及び大学院教育の展開

- ・ 専門的知識を有する社会人・専門職業人の養成
- ・ SDGsやSociety5.0の課題に挑む人財の輩出
- ・ 各分野の専門職養成
- ・ 資格取得率・国家試験合格率の向上（例：薬剤師国試新卒合格率3か年平均60%以上）
- ・ 企業採用担当者等からの肯定的な評価の獲得
- ・ 必要に応じた組織の新設・改廃

【2023年度の取組等】

- ・ 数理・データサイエンス・AI教育の履修者拡大（年度内目標値：60%）
- ・ 大学院教育の重要性の啓発と「学部＋大学院教育担当比率」の向上（40%→60%）
- ・ 大学院健康科学研究科スタート（博士後期課程の検討を含む）
- 薬剤師・理学療法士国試合格率向上（薬剤師：65.0%、理学療法士：87.0%）とJIU/JU薬学部勉強会の実施
- ・ 医療系学部を中心とする新たなキャンパス創造の可能性の追究
- オールイングリッシュコースの導入準備
- ・ JIU/JUの連携模索（基幹教員の相互連携、非常勤講師発令）

※ ○は重点取組事項

4 より質の高い教育研究活動の実現を目指した学修環境の整備

- ・ 学ぶ意欲を高める授業運営、教材の創意工夫、改善促進
- ・ 学修環境の整備
- ・ 学生生活動のサポート

【2023年度の取組等】

- ・ 学生中心型教育の更なる推進（学生のモチベーションに配慮した教育方法への変換）
- ラーニング・コモンズの稼働率の向上とその評価・改善
- ・ 学内ピアサポート活動の推進体制整備（TA,SAの充実を含む）
- ・ 教育のデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進（メタバースを活用した学修環境の検討、学習用電子資料の拡充を含む）
- ・ オンライン・リモート教育推進FDの実施（アクティブ・ラーニング手法紹介動画コンテンツの作成・活用を含む）
- JR東金線求名駅と大学周辺の安全・安心なアクセス環境の確保

②「学生支援力」の強化

5 修学支援の充実

- ・ 奨学生制度・授業料減免制度の整備・充実
- ・ 学修指導体制及び総合的相談体制の整備

【2023年度の取組等】

- ・ 各奨学金制度（強化部、成績優秀者、留学生、入試成績）の検証・見直しとそれに基づく安定的運用）
- ・ 組織横断的な学生支援体制の確立に向けた学生ニーズの調査及び修学支援FDの実施
- ・ 厚生施設（食堂を含む）の管理運営体制の再整備
- ・ 遠隔相談・支援システムの構築
- ・ キャンパス全面禁煙の実施

6 正課外教育の推進

- ・ クラブ・サークル活動、ボランティア活動、地域貢献活動等の支援と計画的な施設の整備と活用
- ・ 正課外教育への教職員等によるサポート体制の構築

【2023年度の取組等】

- **スポーツ推進機構の機能強化と基礎条件（安全性・健全性の確保、学業優先の原則、部のガバナンス、助成金等の適正管理）の確立**
- ・ 強化部の学業条件制度（基準）の検討
- ・ 正課外教育のプログラム化(クラブ関連教養プログラムの検討を含む)
- ・ 多様な学生がスポーツを主体的に楽しめる環境整備
- ・ 異文化交流プログラム・イベントの実施

② 「学生支援力」の強化

7 退学・休学の防止対策の徹底

- ・ 入学前教育、新入生オリエンテーション、初年次教育等の充実
- ・ 退学・休学の真因を定期的な把握・分析
- ・ 退学率については2019年度の50%以下を目標

【2023年度の取組等】

- **23年度（目標値）：退学率：2.8%、休学率：0.9%**
- ・ 寄り添い型学生支援を基盤とするアドバイザー制度運用及び電子カルテ導入の調査
- ・ 退学防止策の点検・評価と改善策の検討（個別のケースごとに退学理由を詳細に調査・分析し、その結果に基づく対応策の打出し）
- ・ 該当学生に対する教員間の意識格差の解消
- ・ 個人情報をめぐる学内関係機関との連携体制

③ 就職・進学支援力

8 キャリア教育の充実

- ・ 新たに策定する「キャリア教育ポリシー」の策定
- ・ キャリア教育授業の展開
- ・ 経済社会の動向や学生ニーズを捉えたプログラムの展開

【2023年度の取組等】

- ・ キャリア形成支援科目の実態調査による課題の抽出と改善・充実
- **就職に強いJIU独自のキャリア教育カリキュラムの検討**
- ・ 学生の多様な進路に対応し、卒業後までを見通した柔軟で的確なキャリア・サポート
- ・ 低年次生を中心としたキャリア教育の充実
- ・ クォーター制を活用した短中期インターンシップ、海外インターンシップの派遣などを促す制度の企画・運用

③ 「就職・進学支援力」の強化

9 就職・進学支援の充実

- ・ 学生の希望・能力・個性に応じた就職・進学支援
- ・ 通年採用のもとにおける就職・進学支援体制について抜本的な点検・見直し
- ・ 長期・短期のインターンシップへの参加拡大
- ・ 大学院進学者（19年度比で50%以上増加）

【2023年度の取組等】

- ・ 就職支援センターの拠点（東京紀尾井町）の充実
- 企業訪問等を通じた求人開拓（外国人留学生も同様）
- 職場体験（インターンシップ）、社会人への相談（社会人メンター制度）など、業界・仕事のリサーチプログラムの提供（インターンシップ受講者数を前年度比で10%以上増加を含む）
- ・ 大学院の内部進学希望者の増加施策
- ・ 大学院学生数（目標値）：420名（収容率1.02）

④ 「学生参集力」の強化

10 学生の受入れと学生募集力の向上

- ・ 全学・全学部 におけるAPを明示し、DP及びCPに基づく人材育成の成果と比較検証する
- ・ 入学定員に対する入学者数比率の平均及び収容定員に対する在籍学生比率の平均1.0を目指す
- ・ 国際大学にふさわしい学生募集方法の検討

【2023年度の取組等】

- 収容定員充足率（目標値）：学部：1.00、大学院：1.00
- ・ 入試日程・入試方法の見直し（入試動向の検証とそれを受けた実施方法の改善を含む）
- ・ 受験生の視点に立ったデジタル媒体の活用
- ・ 高校と大学の連携による体験入学や高校における総合的学習等への協力
- ・ 指定校（連携校）の点検・拡充と附属校の設置の検討

④ 「学生参集力」の強化

11 アドミッション・ポリシーに適合する入学者選抜方法の改善

- ・ 志願者の多様な活動歴等の情報をオンラインで収集するシステム（ポートフォリオ等）の開発
- ・ 高校等での知的能力の評価だけではなく、能力・意欲・適性等（留学生にあっては日本語力含む）を多面的・総合的に評価する入学者選抜仕組み構築・実施

【2023年度の取組等】

- 「高大接続改革」に対応した入学試験の実施
- 安定した入学者を確保するための年度内入試による入学者の比率向上
 - ・ JIU/JU合同入試（共同開催）の可能性及びその方法の検討
 - ・ JIU/JU入試出題委員（数学、英語など）の共有

⑤ 「国際力」の強化

12 国際社会への貢献に向けた基盤強化

- ・ 海外の大学・研究機関との連携・協力体制の推進
- ・ 包括的国際化推進体制の強化

【2023年度の取組等】

- ポストコロナにおける国際力の再加速
- カナダやアセアン諸国の大学等との連携強化
- 海外協定校の見直し（重点協定校の設定、協定深化の交渉）
 - ・ オンライン交流と実留学の組合せモデルの構築
 - ・ 相互の教育・研究シーズを効果的に活用した学生受入れ・派遣のモビリティ拡大と研究交流活動の促進
 - ・ 海外大学との共同授業開講の試行的実施

⑤ 「国際力」の強化

13 外国人留学生の戦略的受入れと就学環境の整備

- ・ 外国人留学生受入数を年間450人程度に拡大
- ・ 地域・分野・プログラム等の充実
- ・ 新規教育プログラムの充実、支援措置

【2023年度の取組等】

- ・ 英語で行う授業の充実
- ・ 共同教育プログラムの充実
- ・ 渡日前入試及び海外指定校入試の拡充
- ・ 外国人留学生の日本語教育体制充実（日本語eラーニングコンテンツの拡充、日本語短期研修プログラムの実施など）

○ 外国人留学生数（目標値）：900名

- ・ JIU/JU合同外国人留学生受入れプログラムの企画・開拓
- ・ JIU/JU合同海外入試の実施
- ・ JIU/JU合同外国人留学生募集及び入試の実施

14 本学学生の海外留学と国際体験の促進

- ・ 単位取得を伴う海外留学体験学生：年間1,000人
- ・ 協定校交換留学・短期海外研修プログラムの実施
- ・ 海外留学・海外インターンシップの促進体制の更なる整備

【2023年度の取組等】

- ・ 日本人学生の外国語学力強化プログラムの企画・実施
- ・ 学内語学プログラム情報の取りまとめ・広報
- ・ 交流協定校の拡大や学部及び大学院における短期海外留学科目の開設・拡充などによる短期留学の拡大
- ・ 留学準備支援体制の拡充（留学相談会の改善を含む）
- ・ 語学能力検定試験の受験奨励支援策の企画・実施

○ 新規海外留学生数：長期100名 短期300名

- ・ JIU/JU合同海外研修プログラムの企画・開拓

⑥「研究力」の強化

15 研究成果の「創出」と「発信」

- ・ 各分野学界をリードする研究成果及び地域社会の諸課題を解決する研究成果の創出
- ・ 研究成果を社会貢献として国内外への発信

【2023年度の取組等】

- 科学技術振興機構が運営する“researchmap”登録率:70%
- ・ 国際ジャーナルOA論文投稿支援の仕組みづくり（論文作成等に資するFD等の開催）
- ・ 論文投稿・リポジトリ申請フローの整備
- ・ クロスポイントメント制度の先行事例の調査（パイロットプログラムの検討を含む）
- ・ 学長主催「JIUポスターセッション」の開催
- ・ オープンプラットフォームの活用による研究成果の発信

16 研究資金力の強化

- ・ 科研費助成事業、共同研究、受託研究等による外部資金獲得総数を20%以上増加
- ・ 科研費補助金等の申請の奨励
- ・ 外部研究資金の募集情報を収集・提供。応募への支援体制の整備

【2023年度の取組等】

- 科研費申請件数・採択件数（目標値）：80件・18件（21年度に目標値を達成したが、22年度に低下）
- ・ 科研費申請率前年度比50%増加に向けた奨励策の企画・実施
- ・ 既存の学内研究費制度の検証
- 外部資金獲得のインセンティブ方策の企画・実施

⑦「地域連携・社会貢献力」の強化

17 地域創生機能の強化

- ・ 「地（知）の拠点大学」としての地域創生機能の強化
- ・ 組織体制の拡充とネットワークの整備
- ・ 教育研究活動等を通じた教職員、学生等の主体的な貢献活動の支援

【2023年度の取組等】

- ・ 総合大学としての強みを活かした幅広い分野の地域連携事業の展開
- 地域からの要望の吸上げ・応答できる仕組みの整備とそれに基づく事業の企画・実施・検証
- ・ 地域連携推進センター主催のFD開催
- ・ 大学全体の社会連携活動の可視化と社会連携活動サポートの強化
- ・ 地域における防災・減災活動の取組の推進

18 地域志向・社会貢献型人財育成に向けた教育カリキュラムの展開

- ・ 地域志向・社会貢献型の人財育成
- ・ 地域を教育の場としたプログラム開催（年間100件以上）
- ・ リカレント教育プログラム開催（延べ50人以上の受講生輩出を目指す）
- ・ 人生100年時代におけるシニアの社会貢献（学士課程教育カリキュラム、社会人リカレント教育プログラム、大学院プログラム、教職員研修プログラム等の充実）

【2023年度の取組等】

- 「千代田学」スタート
- ・ 地域連携プログラムの策定
- ・ 学部等の強みを引き出した市民向けプログラムの開発
- ・ 実践的なりカレントプログラムの開発
- ・ 生涯学習プログラムのハイブリッド型への転換とJIU/JUの実質的連携
- ・ 社会人のアクセスの便利さを活かした教育内容及び環境整備

⑦「地域連携・社会貢献力」の強化

19 産学官連携による地域社会・地域産業の課題解決等の寄与

- ・ 地域社会の課題解決や産業イノベーションにつながる産学官連携活動の推進
- ・ 地域と連携した研究の実施（延べ50回以上目標）
- ・ 関東圏内における共同研究・受諾研究の年平均10件以上の増加実施
- ・ 地域のニーズと学内シーズのマッチング

【2023年度の取組等】

- ・ 産学官連携強化
- **新たな研究課題の発掘（研究推進と社会連携との協働営業活動）**
 - ・ 研究シーズ集を基に地域のニーズと学内シーズのマッチングの促進
 - ・ アントレプレナーシップの醸成を目的としたプログラムの展開
 - ・ 学生参画型の産学官連携事業の企画

20 教育研究成果の地域還元

- ・ 社会に開かれた大学としての責務を果たす
- ・ 本学の教育研究成果を社会に還元するため、地域等との連携を能動的に進める
- ・ 学内外施設を活用したシンポジウム、生涯学習講座、市民講座、展覧会等の開催(年50回以上目標)
- ・ 本学の強みを活かした多面的な活動を展開

【2023年度の取組等】

- ・ 社会人向けの履修証明プログラム等の企画（社会人の学び直しへの寄与を期待）
- **参加型プログラムを用いた地域連携型実践的教育の企画・実施**
 - ・ 山武郡市医師会をはじめとする諸団体との連携強化・活動（サステナビリティ・ユニバーシティを目指した地域環境保全活動を含む）
 - ・ 「健康科学セミナー」の実施（地域にも開放）
 - ・ 各イベントのターゲットに応じた広報活動による新たな参加者の獲得
 - ・ 大学施設の一般開放や受入れの推進による地域に開かれたオープンな空間の提供

⑧「JIUネットワーク力」の強化

21 JIUの総合価値の向上及び情報発信

- ・ 建学の精神と教育理念を具体的な実践活動として展開・周知
- ・ 全構成員が広報活動の担い手となり、情報の受け手の多様なニーズに応じて、情報を迅速かつわかりやすい形で多様な情報発信機能を活用して発信する体制強化を推進

【2023年度の取組等】

- ・ JIU情報発信の強化（オウンドメディアによる情報発信強化、Z世代に対応する大学広報・入試広報開始など）
- 学生募集広報と連動した本学の教育・研究の取組の発信
- 教育ブランディング強化に向けた新たな広報戦略の策定・推進（各情報発信のステークホルダー整理を含む）
- ・ 大学広報のJIU/JU連携
- ・ 全国大学スマホ・サイトユーザビリティ調査20位以内（前年54位）
- ・ 各種ランキング（「THE世界大学ランキング 日本版」など）の向上
- ・ 第4回国際大学フォーラムの開催
- ・ 特定エリアを対象とした「教育」「国際」ブランディング施策の実施

22 卒業生・同窓会・父母後援会との連携強化

- ・ 校友ネットワーク（同窓会、現日の教職員、在校生、卒業・修了生及びそれらの家族含む）の整備
- ・ 卒業生所在情報補足率を80%に引上げ
- ・ ホームカミングデーをはじめとする各種の交流会・懇談会の拡充
- ・ ロゴマーク・学歌の普及、卒業生参加型のキャリア支援の強化などユニバーシティ・アイデンティティ活動を推進

【2023年度の取組等】

- ・ 校友ネットワークの一層の健全化と校友サービスを通じた本学と卒業生等との連携の確保・強化
- SNS等の抜本的整備・段階的改修を通じ同窓会制度の周知を強化
- ・ 卒業生所在情報捕捉率（目標値）：75%
- ・ 大学運営に校友の意向を汲み入れる仕組み、「城西国際大学遺贈寄附信託制度」（仮称）、異業種交流サロン事業などの導入検討
- ・ ホームカミングデー（校友間の交流支援）の定期開催とアンケート結果に基づく改善・向上（校友参加率を前年度比2割増加）

⑨「組織・運営力」の強化

23 教学ガバナンス・マネジメントの実質化・効率化の推進

- ・ 法人中期計画と連動した経営力強化に向けた取組を着実に推進
- ・ 全学運営システムの機能強化をはじめとする教学ガバナンス・マネジメントの実質化と効率化

【2023年度の取組等】

- 法人及び本学の中期計画と部局をつなぐPDCAサイクルによる中期計画の進捗管理と2040年を見据えた次期中期計画案の準備
- ・ 「私立大学ガバナンス・コード」の実施項目遵守状況の点検・改善
- ・ 管理運営編成の柔軟化（「学長特任補佐制度の活用」「臨時の職の設置」など）と経営人財の育成、部局・構成員との緊密なコミュニケーションの確保
- ・ 教学ガバナンス・マネジメント活動に関する適切な情報発信
- ・ 部局評価制度の整備と部局長裁量経費等との連動の検討

24 現場力の向上を支援する仕組みの構築

- ・ 教職員一人ひとりが企画・実行力を発揮できる環境を整えるため、構造的かつ抜本的な業務マネジメント再構築
- ・ 組織・人事マネジメントの体質改善
- ・ 学生サービスの向上を目指し現場における教職員の役割の最適化

【2023年度の取組等】

- ・ 業務マニュアルの計画的整備と能力向上に資する学習機会の提供
- ・ 新任教職員に対するメンター制・チューター制の導入・活用と研修会派遣のスタート
- ・ AI、RPAなどに関する情報共有とシステムの導入・統合・リニューアル等による高効率化
- 教職員の意識・行動変革と多様な努力が報われる人事処遇システム（給与の構造改革・再配分、評価の賞与・昇給・昇格等への反映、役職定年制の導入、諸手当の見直しなど）の提案・協議・計画的整備
- 基幹教員制度の導入と総合的な教員人事計画の策定
- ・ 教員のキャリアオプションの体系化とその活用

⑨「組織・運営力」の強化

25 全学的リスクマネジメントとコンプライアンスの徹底

- ・ 大学の社会的責任を果たすため、本学の構成員一人ひとりがリスクマネージャーとしての自覚を持ち、様々なリスクに対応できる実践的リスクマネジメント体制の確立
- ・ 個人及び組織のコンプライアンスの高度化

【2023年度の取組等】

- ・ 想定リスクに基づくマネジメント体制の体系化、マニュアルの刷新など全学的リスクマネジメントシステムの継続的整備
- 予測される大規模地震に備え、抜本的に見直した防災管理規程に基づく自助・共助の取組の強化、防災連携・救急救助体制の充実・強化、危機管理対策の徹底
- イエローカードの仕組みの導入・運用
 - ・ コンプライアンス教育（研究費管理、研究不正）の受講率100%
 - ・ 安全保障輸出管理制度の周知・運用
 - ・ 個人情報保護規程の抜本的見直しとその周知・徹底
 - ・ 全規程の計画的点検・見直し（3か年計画の2年目）

26 自己点検・評価の実質化と認証評価への適切な対応

- ・ 教育研究活動の活性化と質的保証のための自己点検・評価に関する体制・機能の強化
- ・ 自己点検・評価及び第三者評価を厳正に実施
- ・ 自己評価結果を大学運営の改善に反映
- ・ 第2期認証評価指摘事項への適切な対応

【2023年度の取組等】

- 第3期認証評価受審し、学長を中心に教職員が協働して万全を期し、適合判定を獲得

⑨「組織・運営力」の強化

27 創立30周年記念事業及び記念催事の完遂

- ・ 創立30周年記念事業として、時代に適合した教育研究環境の整備、学術アーカイブズの構築等の事業を推進
- ・ 創立30周年記念行事として、記念式典、記念講演会等の実施

【2023年度の取組等】

- ・ 創立30周年記念事業及び記念催事の成果の検証
- ・ 募金活動を継続して最大限の努力

3. 財務、人事、情報基盤

① 財務改革

1 経常収支の改善

- ・ 収支構造の分析
- ・ 事業活動収入の増収策、事業活動支出の削減策を策定・実施

【2023年度の取組等】

- ・ 現状分析（他大学との比較）
- ・ 収支改革案の策定
- ・ 大学との調整結果を2024年予算に反映（随時、理事長・理事会に報告し、方針を確定）

2 収入の確保

- ・ 資産運用方法、運用可能資産の把握
- ・ 新運用方針案の策定
- ・ 新運用方針の実施
- ・ 授業料の見直し検討
- ・ 競争的研究資金、産学共同寄付金等の拡充

【2023年度の取組等】

- ・ 資産運用の新方針案策定
- ・ 授業料の見直し検討
- ・ 競争的研究資金、産学共同寄付金等の確保

① 財務改革

3 財務システムの見直し

- ・ 現状の課題の確認
- ・ 財務業務フローの改善
- ・ システム改善案の策定
- ・ 新システム開発
- ・ 新システム移行・研修

【2023年度の取組等】

- ・ システム改善案の策定
- ・ 新システム開発

② 人事制度改革

4 人事制度の見直し

- ・ 人事制度の改善案策定・実施
- ・ 給与制度の見直し
- ・ 評価に基づく処遇（ステップ制度見直し）
- ・ 教職員評価制度の実施

【2023年度の取組等】

- ・ 評価の在り方の検討
- ・ 新人事・給与制度の提案（成案を得たものを随時）

③ 情報基盤の改善

5 業務DX化の推進

- ・ 大学間、各部署間の横断的な合理化・効率化
- ・ 学内成功事例の共有・実践
- ・ 各業務のDX化推進（チャットボット・ペーパーレス化、RPA、契約・決裁・請求業務のハンコレス化等）
- ・ DX推進に必要な人材育成・確保・各部署の進めるDX化業務内容とシステムを把握する仕組みの確立
- ・ 各部署の進めるDX化業務内容とシステムを把握する仕組みの確立

【2023年度の取組等】

- ・ 電子帳簿保存法対応、インボイス制度対応
- ・ 電子承認、決裁に向けての検討
- ・ DX化システム導入ルールの確立
- ・ 業務DX化推進
- ・ 証明書・学位記等の電子化（JU,JIU）

6 基盤ネットワーク整備

- ・ ネットワークの保守、管理、運用の一元化、ネットワーク構成の一体化を目指し検討開始
- ・ ゼロトラストセキュリティの導入を見据え調査・検討
- ・ 23年度に1号棟更改し、各棟を効率的に接続(紀尾井町)
- ・ 21号館以前の建物の通信状況を調査、建物間のネットワーク環境の格差是正（JU）
- ・ 25年度までに設備更新を実施したい（JIU）

【2023年度の取組等】

- ・ 紀尾井町1号棟ネットワーク更改（紀尾井町）
- ・ ゼロトラストセキュリティに向けての調査検討
- ・ 21号館以前の建物のアクセスポイントの状況を確認し、追加設置等の検討（JU）
- ・ スポーツ文化センターの無線LANの再構築（JIU）

③ 情報基盤の改善

7 教育研究システム・教育支援システム（LMS）

- ・ 授業方針・環境・方法に対応できる設備導入（JU）
- ・ 学習効果の可視化、設備の効果的活用促進（JU）
- ・ BYOD(Bring Your Own Device)推進（JU）
- ・ 質の高い教育研究活動の実現を目指した学修環境整備（JIU）
- ・ PC教室の設備の整備（JIU）

【2023年度の取組等】

- ・ 新システム導入（JU）
- ・ オンライン授業やアクティブラーニング等の効果的実施のためPC教室の有効活用検証（JU）
- ・ box(オンラインストレージ)の導入（JU）
- ・ ノートPC購入補助継続（JU）
- ・ GAKUENシリーズの教育支援システム(LMS機能)への切替実施（JIU）
- ・ PC教室の更改（JIU）

8 情報セキュリティ

- ・ 情報セキュリティ体制の確立
- ・ 情報セキュリティの周知徹底

【2023年度の取組等】

- ・ 年度毎の見直し
- ・ 研修会の開催

③ 情報基盤の改善

9 教学事務システムの統合に向けて

- ・ 教育環境・方法の変化、両大学間の共通科目やクォーター制とセメスター制への移行等の方針決定を受けて、それに柔軟に対応できるシステムの検討・選択
- ・ 教学事務システムの統合・一元管理のための調査・検討

【2023年度の取組等】

- ・ 105分授業、セメスター制の導入に伴うシステム対応（JU）
- ・ システム更新に向けた検討開始（JU）
- ・ 新システムの問題点・改善点の検討（JIU）

10 図書館システムの統合

- ・ 新しい図書館の在り方を実現
- ・ 図書館と情報センター(情報推進課)連携強化
- ・ 図書館システム及び運用方法を統合し合理化を図る

【2023年度の取組等】

- ・ プロジェクトチームの活動継続
- ・ 必要な図書館システムの調査・検討
- ・ 図書館システム統合の検討